

春と秋の日帰りドライブ

今年も春と秋の「ひたち海浜公園」へ行ってきました

【令和4年（2022年）4月23日・10月20日】

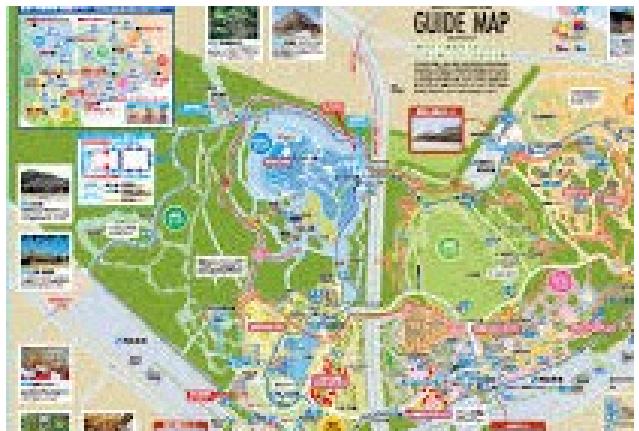


■写真上・「見はらしの里」方面から、春の「見はらしの丘」全景

◇今年も春と秋の「ひたち海浜公園」へ行ってきました 大槻伸次

国営「ひたち海浜公園」は、茨城県ひたちなか市の太平洋岸にある。春はネモフィラ・スイセン・チューリップ。初夏は、緑のコキア（葦草）やポピー、バラ、百日草（ジニア）、ヒマワリ。秋は紅葉したコキアやコスモス、そしてそばの花。冬のアイスチューリップなど彩り豊かな花々が四季を通じて咲き誇る。また、海拔 100m からの眺望を楽しめる大観覧車をはじめ 25 種以上のアトラクションが揃う遊園地もある。その他、林間、アスレチック広場や、バーベキュー広場など、食事・スポーツほか、ピクニックやサイクリングなどが花々と共に楽しめる。

公園の由来は、1938 年水戸陸軍飛行学校、陸軍水戸飛行場が建設され、第二次世界大戦後は米軍水戸射爆撃場として利用された。その広大な跡地は 1973 年（昭和 48 年）に日本政府に返還され「首都圏整備計画」の一環として整備されたものだそうです。1979 年事業着手、1984 年に工事が開始され、1991 年に約 70ha が開業、その後何度も拡張を繰り返し今に至っているという。公園の総面積は 350ha で、東京ディズニーランドの 5 倍程度の面積にあたるが、実際に公園として利用されているのは南側の 191.9ha が開業中で全体の 55% だという。



■写真上・園内ガイドマップ。（入場時配布）

■写真中上・中央ゲート入ったところ。

（中央ゲートはマップ下段中央左側）

■写真中下・春の見はらしの丘。中央ゲートを入って園内を縦断（マップ中央の線に塗られた所）し、マップ最上段「はまかぜ橋」を超えると目前に迫って来る。

■写真下・見はらしの丘全景。「見はらし広場」から撮影。

（屋台が並んでいる食事場所から）

我が家では平成 26 年から春と秋の年 2 回出かける様になった（コロナで一時中止）。出掛け初めの頃は孫も一緒で、じいちゃんとばあちゃんは「見はらしの丘」で、孫は遊園地（プレジャーガーデン）が気に入って帰るのが大変だった思い出がある。

この公園の最大の見どころは、あの広大な丘に花が一面に咲き乱れ青空と一体化した春のネモフィラとチューリップ畠。秋は真っ赤に染まったコキアとコスモス、そして真っ白な花をつけたそば畠だろう。そして、丘に登り切って眼下に目をやれば太平洋の水平線が一望でき、花と海が一度に楽しめる。

以前、夏休みに孫と大洗水族館に行ったとき現地の民宿に一泊し、翌日、夏の「ひたち海浜公園」に立ち寄ったことがあったが、夏季は春や秋のような人出や屋台売店はなく閑散としていた。しかし、静謐な中一面に広がる緑のコキアの丘に登ったが、すごく静かで春と秋とは異なる空気感があった。

行き方として、最初の頃は全線北関東道で往復したが現在は国道 50 号線と北関東道が交差する桜川・筑西 IC まで 50 号線を利用しその先から北関東道（1 時間弱）を利用（その時の気分で）することがある。全線高速の場合は太田・桐生 IC から乗れば 3 時間弱で到着する。高速道（水戸道）ひたち海浜公園 IC を降りて陸橋の袂を右折すると直ぐに南駐車場がある。南駐車場に駐車し中央ゲートよりに入場している。

中央ゲートに入ったところ一帯は「プレジャーガーデンエリア」というそうで大観覧車（プリンセスフラワー）など子どもたちの喜びそうな乗り物が 28 種類もある乗り物コーナーである。

※中央ゲートはガイドマップ下段中央右手。中央は水戸道が縦断している。見はらし橋は最上段。上段左青に塗られたところが「見はらしの丘」です。

■写真上・見はらし広場の豚ドッグとハム焼きの店。

■写真中上・見はらし広場で豚ドッグ（マックの様なもの）とハム焼きで昼食。写真左はハム焼き。

■写真中下・茨城地方の古民家。手前は菜の花畠。

■写真下 2 枚・チューリップ畠。木立の中にチューリップ畠が広がる。



我々はこの「プレジャーガーデンエリア」はパスし、マップに従い（園内左回りに）広大な「草原エリア」の「常陸野の小道」を散策しながら春はネモフィラ、秋はコキア（葦草）の植えられている「みはらしの丘」エリアへ向かう。とにかく園内は広大で、サイクリング道がよく整備されているので公園内を効率よく巡るには自転車を借りてサイクリングがベストだろう。

また、園内は季節に合わせた花々が植栽されている。「見はらしの丘」エリアへ行く途中、園内を縦断している常陸那珂（水戸道）有料道路に架けられた「はまかぜ橋」を渡る。すると「見晴らしの丘」は直ぐそこに出現する。

春は丘全体が青で空と一体化、秋は真っ赤に染まる。行列に従い見晴らしの丘に上がって周辺を俯瞰すると、目の前は海ですぐそこにあるが、改めて公園の敷地の大きさが実感できる。しばしの写真タイムの後、「見晴らし広場」方面に下って休憩所広場へ。しかし椅子の確保が大変。広場は軽食の屋台がずらり並んでいるが、我が家はいつも名物の「豚ドッグ」と「ハム焼き」をしている。ところが、この店は相変わらず長蛇の列ができてしまう。最初の頃、あんなに並ぶのは旨いからだろうと、妻は長い行列に加わって買ってみたら今では定番となってしまった。

昼食後は改めてコースを変えて、見晴らしの丘を周回しながら常陸地方の「古民家の里」方面に下る。そして民家に立ち寄る前にソフトクリームを食べて一休みするのが定番となっている。

■写真上・秋の見はらしの丘 コキア見ごろ。

■写真中上・秋の見はらしの丘の前で。

■写真中下・秋の見はらしの丘。異なる角度から望む。コスモス満開で超見ごろ。

■写真下・秋の「見はらしの丘」見晴らしの里方面から望む。コスモス畑が一面に広がり青い空にコキアとコスモスが映える。

■写真最下段・見はらしの丘から古民家のある方面に下る周遊途中、樹林エリア側に風にそよぐススキの大群が見られるが心が安らぐ。



古民家は常陸地方の特徴を持った昔の古民家が年代の違う三棟が再現され、係りの方々が、竈や火鉢に火が燃やされ昔の生活を再現している説明もしてくれる。私は思わず子どものころ訪れた母の実家を思い出し懐かしさを感じてしまった。

古民家を見学してから前方に広がる「見はらしの里」方面へ。途中菜の花畠（秋はそば畠の白い花）などを横目に写真を撮りながらウロウロしているとあつという間に時間が経過してしまう。そこで、春は陽が長いので「水仙ガーデン」から「たまごの森ガーディン」へ。たまごの森ガーディン内の広大なチューリップ畠（秋はこのエリアは何もない）を堪能し、西口エリアを超えてマップ下段の「そよかぜ橋」を渡り中央ゲート方面に進路を取り「大草原フラワーガーデン」（バラ園など）へ。春はここで時間を潰しても帰る。

秋は陽が短いので早めに園を出る。現在は、孫は来なくなつたのでプレジャーガーデンエリアへの立ち寄りはないので時間の調整に苦労することは無くなつた。陽の短い秋は遅くとも14時40分園を発つようにしている。過去に、秋の行楽のシーズン、全線を高速道で帰ったはいいが、東北道と合流する手前で呆れるほど渋滞したことがありそれ以来帰途は、桜川・筑西ICで高速を降りて国道50号線で帰るようにしている。途中、休憩をとったが、午後6時ころには帰宅できた。

■写真上・古民家の里でのソフトクリーム。

■写真中上・白と赤のそばの花畠。

■写真中中・「見はらしの里」より遠望。

■写真中下・そば畠から見晴らしの丘方面遠望。

■写真下・大草原フラワーガーデン内のバラ園から大観覧車を望む。

・ここで園内を左回りにほぼ一周し、中央ゲートはすぐそこ（南駐車場）。

(2022/11/29 記)

